

小平市子どもサミット

瀧口 優・安倍 大輔

活動実績の概要

事業目的と活動実績

1. 経過

2018年度「私立大学研究ブランディング事業」申請にあたって、小平市との連携として「小平市子ども白書」（以下「子ども白書」とする。）作成と「小平子どもサミット」（以下「子どもサミット」とする。）の実施が盛り込まれた。ブランディング事業は採択に至らなかったが、申請にあたって盛り込んだことは実施するという前提で白梅学園大学・短期大学子ども学研究所がスタートした。

2018年度末に小平市より、計画のうちの「子どもサミット」を2019年度に前倒し実施できないかという打診があり、地域コミュニティ担当の瀧口（保育科教授）と安倍（子ども学科准教授）で実施原案を作成した。その中で「子ども白書」作成のための調査も必要であるということで、担当の本山（子ども学科教授）に相談してアンケートを作成して頂いた。あわせて調査対象の小学校と中学校を小平市教育委員会に選んでいただいた。2019年4月から5月にかけて、市内の東部にある小学校と中学校各1校、西部にある小学校と中学校各1校の計4校に調査を依頼し、6月から調査結果の集計と分析を行った。

一方、「子どもサミット」のポスターとチラシを作成して5月の校長会で依頼し、各学校に配布した。6月に入って申し込み者が少なく、各学校にあてて追加の依頼を行い、7月には何とかサミットを実施する事が可能となった。

「子どもサミット」は小学生と中学生を別々にいき、それぞれから出された意見をまとめ、小平市には「報告書」として子どもたちの要望を届けることになった。残念ながら小学校のサミットは

当日台風のため実施できなかったが、中学校は8月7日に12人の参加で実施された。

サミットに先立ってアンケート調査で出てきた小学生や中学生の「願い」を資料として提供し、中学生からは活発な意見が出された。その結果をまとめて8月20日に小平市に「報告書」として提出し、サミットを開催できなかった小学生が、小平市の代表として出席した小平市教育長に説明した。

小平市は12年にわたる長期総合計画に、子どもたちの意見を反映させたいということで今回の「小平子どもサミット」を位置づけていた。

2. 成果と課題

小平市との連携を視野に今回取り組み、実際に2018年度末には小平市と白梅学園大学・短期大学は包括連携協定を結んだ。その成果として今回、小平市内の子どもの調査と子どもサミットが実現した。小平市が長期総合計画を作成する時期に当たったということがその背景にはある。

また子どもサミットとアンケート調査を有機的に結びつけたことが、サミットの意見をまとめる上で大きな力になったと考えられ、子どもサミットでの中学生の積極的な意見発表につながったと言える。子どもたちからは実に沢山の要望が出されていた。

更に今回の取り組みを通して、小平市と白梅学園大学・短期大学の協力関係も深まり、教育委員会の協力をはじめとして、子どもサミットについて積極的に支援してくれる校長先生も出てきている。

課題としては、実施にあたって、事前の小平市との連絡や調整、学校行事等との調整、調査時期

の選択などかなりの時間がかかり、毎年実施するとすればシステムをきちんと作らなければならぬ。小平市としては「中学生の意見発表」が取り

組まれている中で、この「子どもサミット」をどのように位置づけるのかが問われてくる。
(瀧口・安倍)

小平市長 小林 正剛 様

2019(令和元)年8月20日

小平市子どもサミット応募者代表

2019 小平市子どもサミットからの報告書

私たちは2019年に白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所が主催し、小平市及び小平市教育委員会が後援した「小平市子どもサミット」に応募しました。小平市子どもサミットでは「小平市に暮らすことについてのアンケート」を踏まえて意見をまとめましたので、以下の点について小平市として検討していただくことを要望します。

1. 学校での生活や学習について

- (1) 学校での生活は大変楽しいので今後も楽しい学校を守って欲しい。
- (2) アンケート結果で自分のことを好きだと思わない人がいるので、もっと自信を付けて欲しい。
- (3) 違う学校の人たちとたくさん遊びたい。
- (4) 小学生から高校生まで参加できる機会をしてみたい。
- (5) 市内の部活動交流会の日を増やして欲しい。
- (6) 学校の給食をもっとおいしくして欲しい。
- (7) 大学や高校の見学をさせて欲しい。
- (8) アンテナに参加しやすくなるようにして欲しい。
- (9) 小学生にも役者の体験をさせてほしい。
- (10) 学校の図書館に司書の先生を置いてほしい。
- (11) 給食の器を陶器にしてほしい。
- (12) 給食のメニューを子どもに考えさせて欲しい。
- (13) 体育館に冷房が欲しい。
- (14) ランドセルではなく、リュックサックなどの登録も認めて欲しい。また安いランドセルやランドセルを譲ったりする制度があるといい。
- (15) 学校へ持っていく荷物が多いので、もっと学校に置いておけるようにしてほしい。
- (16) 土曜日の授業をなくしてほしい。
- (17) タブレットやスクリーンを活用した授業をして欲しい。

2. 地域での生活について

- (1) 子どもが安心して過ごせる場所が少なくなっているので、学校を含めてもっと子どもが楽しく遊べる場所を考えて欲しい。
- (2) 特に家族で楽しめる場所が無料で使えるような施設が欲しい。
- (3) 近いところに地域センターや公民館、児童館が欲しい。
- (4) 祭りをもっと増やして欲しい。特に地域の伝統を伝える祭りが欲しい。
- (5) 小平の特産であるブルーベリー狩りがもっとできるような増やして欲しい。
- (6) 昔遊びのページなどができる場所が欲しい。
- (7) ひと月に1回地域センターや公民館で話をする時間を作って(確保して)欲しい。
- (8) 小さい子どもから高齢者までみんなで楽しめるようなミニ運動会があて欲しい。
- (9) 小中学生に小平の図書館について紹介して欲しい。
- (11) 障がい者も楽しめる公園が欲しい。
- (12) 地域の人のふれあいの場が欲しい。
- (13) 不審者対策をしてほしい。特に暗いところは街灯を増やしてほしい。
- (14) 地域で見守っている人を増やして欲しい。
- (15) 図書館が暗い、図書館の自習室がきちんとした施設になっていない。クーラーを使うのに〇度以上にならないと使えないとかではなく、環境問題も大事だけど、もっと工夫して欲しい。

3. 小平市全体について

- (1) 無料で野球が出来る広い場所が欲しい。
- (2) スポーツ施設、スケートボード場やテニスコート、ボルダリングなどを作って欲しい。
- (3) テニスコートを増やして欲しい。
- (4) 大きなショッピングモールや映画館等を作って欲しい。
- (5) プールを充実させて欲しい。
- (6) 小平に自然が豊かな公園を増やして欲しい。
- (7) こどもの有料化によって子どもの排出を減らせるのではないのと思ひ返してほしい。
- (8) 森の木でもちやみづかりをやってみよう。
- (9) フィールドアスレチックやワイルドクライミングができる場所が欲しい。
- (10) 家族や友達とゲームを楽しめる場所が欲しい。
- (11) 大人も子どもと一緒に楽しめる場所が欲しい。またそれを知らせてほしい。
- (12) 外国の姉妹都市をつくらせてほしい。
- (13) 防災訓練で地震などを体験できる場所が欲しい。
- (14) 競争体験をできれば学校単位で聞かせて欲しい。
- (15) 小川駅を新しく開発する計画があるらしいがそれを説明して欲しい。環境が変わってしまうのに意見を言う場がほしい。
- (16) 都心のようになるのではなく自然を生かして欲しい。

サポート:白梅学園大学・白梅学園短期大学子ども学研究所